

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の社会科の未来へバトンをつなぐ



令和4年8月発行
西部教育事務所

社会科授業づくり講座
四万十市立中村中学校



西部管内の
講座関係HP

教材研究会 令和4年5月31日(火)

【単元】地理的分野 B 世界の様々な地域 (1)世界各地の人々の生活と環境
【授業者】久米田 真吾 教諭



田村 教科主任
による趣旨説明

ポイント①

【単元を貫く問い】

学習指導要領で示された資質・能力を育成していくためには、「課題把握」「課題追究」「課題解決」の学習過程を意識して単元を構想していくことが重要です。また、**単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」**を設定し、生徒が社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習の充実が求められています。

生徒は「**単元を貫く問い**」の解決に向かって、見直しを持ちながら自分の学びを調整していきます。「**単元を貫く問い**」が、生徒の興味・関心、疑問に合ったものになることで、自分事として見方・考え方を働かせながら、主体的に課題解決に向かうことになるはず。



単元終了時に目指す生徒の姿

- 世界各地で暮らす人々の生活の特色を、その生活が営まれる自然的条件や社会的条件に関連付けて、表現している。
- 各地に暮らす人々の生活を比較したり、生活の変容を自然・社会的条件と関連させたりして、多様性を理解し表現している。

協議の論点

単元終了時の目指す生徒の姿の達成に向けて、子どもたちが主体的に取り組める「単元を貫く問い」とは、どのようなものだろう。

単元を貫く問い (教材研究会時)

世界の人々の衣食住に影響を与えているのは、どのようなものだろう

「単元を貫く問い」と学習過程との関連性

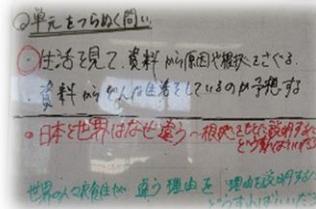
生徒の驚きや疑問からの
「問い」になっているか

単元計画

課題把握	課題追究	課題解決
<p>「単元を貫く問い」を設定し、それと関連する各時間の問いを大切にしていきたいと思った。</p> <p>○ 生徒の疑問や言葉から「単元を貫く問い」(課題把握)を設定し確認する。</p>	<p>「単元を貫く問い」と学習過程との関連性</p> <p>生徒の驚きや疑問からの「問い」になっているか</p>	<p>単元終了時に目指す生徒の姿</p> <p>○ 世界各地で暮らす人々の生活の特色を、その生活が営まれる自然的条件や社会的条件に関連付けて、表現している。</p> <p>○ 各地に暮らす人々の生活を比較したり、生活の変容を自然・社会的条件と関連させたりして、多様性を理解し表現している。</p>

参加者の声

- 子どもが自分事として考えられる「単元を貫く問い」を設定し、それと関連する各時間の問いを大切にしていきたいと思った。
- 課題設定が生徒たちの深い学びに結びつくもの、「目指す生徒の姿」に迫れるような「問い」(めあて)の重要性を学ぶことができた。明日からの実践に活かしていきたい。



授業研究会 令和4年7月7日(木)

授業者：久米田 教諭



協議の論点

本時の目標を達成するために、生徒が社会的な見方・考え方を働かせて課題解決することができていたか、できていなかったか。また、それはなぜか。



単元を貫く問い (変更後)

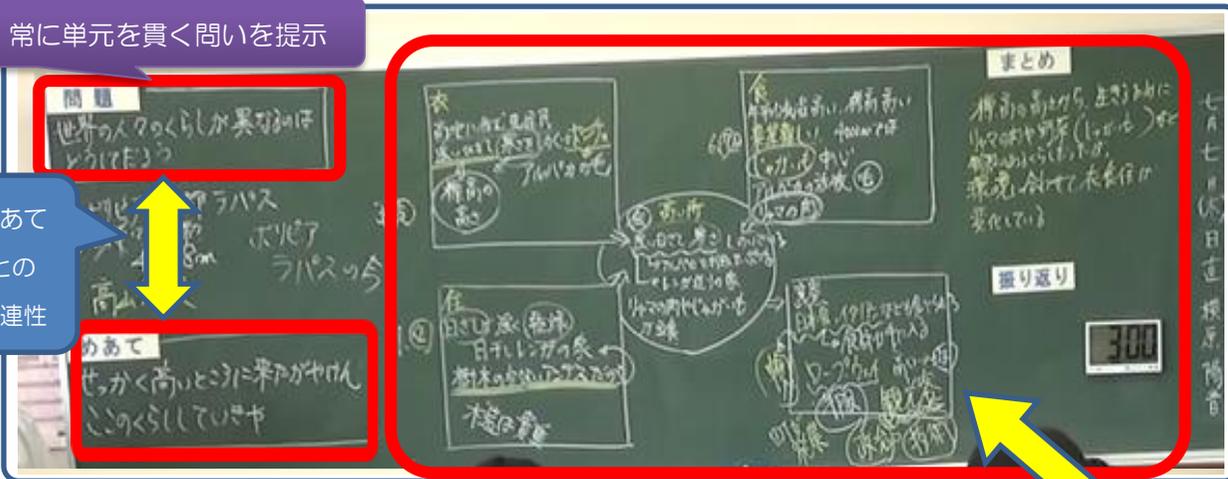
世界の人々の暮らしが異なるのはどうしてだろう

本時の目標

アンデス山脈の高山地域に居住する人々の生活の資料を例に、自然条件や社会的条件の影響を受けた生活が見られることを、根拠を示しながら考察し、表現する。

常に単元を貫く問いを提示

めあてとの
関連性



協議

- ◇本時の「めあて」では、目指すゴールにたどり着くのは難しいのではないかと。
- ◇高山気候帯は、世界中に見られる。ラパスのみでは高地の暮らしの考察が偏ってしまうのではないかと。他の高山都市との共通点などを見いだしたり、比較したりするパターンもあったのではないかと。
- ◇社会的な見方・考え方については、資料が限定されてしまうと考えが狭まってしまっているのではないかと。時間が経っても自分で検索させ、情報や根拠を調べさせることも必要である。

ポイント②

単元を通して、場所の自然環境や衣食住に着目させ、人々の生活の営みを自然条件や社会条件と関連付けて地域の特色を考察することで、「単元を貫く問い」に迫っていくような「課題追究」の流れを設定しています。このように、**生徒の主体的な学びを引き出し、「課題解決」に向かう単元構想を描くことが大切**になります。

ポイント③

【思考を深める協働的な活動】

本時の授業では、意見の出し合いに終始せず対話的な活動にするために、自分の考えを相手に伝える際には根拠を明確にし、自分の言葉で説明する工夫を意識させていました。また、聞き手もメモを取って聞くことや、批判的な聞き方を意識させることで疑問や新たな発見、再考につなげられる活動となるような取組を目指しています。



根拠を可視化して提示しながらの説明

ポイント④

【生徒の学びが見える板書】

生徒が調べ、思考し、理解した学びを可視化させるために、授業者は板書についても大切にしなければなりません。生徒が社会的な見方・考え方を働かせ、課題解決に向けた軌跡が残る板書にすることで、生徒自身のノートも変わってきます。

参加者の声

- 社会科の授業で育てたい資質・能力や評価規準を意識した授業づくりを行っていかうと思いました。
- 資料の提示方法は改めて重要だと感じました。どの場面でどのように提示するのか、思考を深める活用法を取り入れて授業づくりをしていきたい。
- 単元を通して生徒に力を付けていくことの大切さを感じています。